

社会科	令和元年 6月28日(金)	尾道市立山波小学校 第6学年1組 28名(男子12名女子16名)	指導者 岡田 将平
単元名	わたしたちのくらしと日本国憲法 ～ゲーム禁止法成立?～		
本単元で育成する資質・能力	結び付けて考える力		
めざす姿	・社会事象に問題意識をもち、根拠を明確にして選択・判断を行うことができる。		

研修テーマ	選択・判断する力を養う小学校社会科学習指導の在り方 － 法教育の視点を取り入れた、議論する活動の検討を通して －
-------	---

1 研修テーマとのかかわり

児童に「ゲーム禁止法」という仮想の法令が制定されるという設定を与え、根拠となる知識(憲法)を獲得し、議論する活動を通して、選択・判断する力を養う。

2 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)における社会科第6学年の内容に基づき設定した。学習指導要領には以下のように示されている。

<p>(1) 我が国の政治の働きについて、学習の問題を追及・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 日本国憲法は国家の理想、天皇の地位、国民としての権利及び義務など国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考えに基づいていることを理解するとともに、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解すること。</p> <p>(イ) 国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること。</p> <p>(ウ) 見学・調査したり各種の資料で調べたりして、まとめること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 日本国憲法の基本的な考え方に着目して、我が国の民主政治を捉え、日本国憲法が国民生活に果たす役割や、国会、内閣、裁判所と国民との関わりを考え、表現すること。</p> <p>(イ) 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。</p>
--

(1) 単元観

本単元は、「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の内容に区分される、日本国憲法や政治の仕組みに関する内容である。日本国憲法が国家や国民生活の基本を定めていることや、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解させるとともに、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解できるようにすることをねらいとしている。基本的人権の尊重、国民主権、平和主義の原則の三つの柱に加えて、天皇の地位、国民の権利と義務など日本国憲法の基本的な考え方から我が国の民主政治を捉えることができるようにする。さらに、憲法の基本的な考え方と国民生活を関連付けたり、国会、内閣、裁判所の働きと国民を関連付けたりしながら、憲法の特色や役割、国民としての政治への関わり方について考えさせる単元である。

このように憲法や政治という法に関する内容を学習する単元であるため、法教育の視点を取り

入れて学習することが有効であると考え。法教育の目標は「個人の尊厳や法の支配などの憲法及び法の基本原理を十分に理解させ、自律的かつ責任ある主体として、自由で公正な社会の運営に参加するために必要な資質や能力を養い、また、法が日常生活において身近なものであることを理解させ、日常生活においても十分な法意識を持って行動し、法を主体的に利用できる力を養うこと」であり、本単元の目標と合致する。社会において国家と国民、個人間の関係を調整する役割を持つものが憲法や法であることを理解し、それらをつくる、使う、判断するという学習過程を行うことで立憲民主主義国家についての理解を深めることができる。

(2) 児童観

本学級児童の全国学力・学習状況調査質問紙の設問「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」への肯定的回答は28人中25人で89%、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。」への肯定的回答は15人で53.6%あり、どちらも全国平均値を上回っている。しかし、行事に参加していると肯定的に回答している割合に対して、何をすべきかを考えていない児童の割合が大きいという現状は課題があると考え。そのため、社会事象について主体的に選択・判断する力を養う必要があると言える。

(3) 指導観

本単元では、法教育の視点を取り入れた、議論する活動を単元に位置付け、選択・判断する力を養うことを目標とする。選択・判断する力とは「事実的知識（記述的知識・説明的知識）に基づいた論拠や基準によって、価値付け（価値的判断）を行い、自らや社会の在り方を合理的に意思決定（実践的判断）する力」である。この選択・判断する力を養うために、次の3点に留意して単元を構成していく。

①現実的な課題を与えること。

②単元の導入に既有知識による議論を行い、不足する知識を明らかにすることで、学びの必然性を感じさせること。

③選択・判断する力の評価基準を明確にし、児童と共有すること。

そこで、本単元において①「ゲーム禁止法」という仮想の法令が設定される場面を見せ、②単元の導入と終末の二度「ゲーム禁止法は成立できるか」という論題で議論させる。③その議論の中で根拠として日本国憲法について触れることで、合理的に自らの主張ができていくのかをループリックに照らして評価していく。

「ゲーム禁止法」は、ゲームという児童にとって非常に身近であり、禁止されることに対して反対の感情が生まれやすい題材である。ゲームは近年、「エレクトロニックスポーツ（略称eスポーツ）」として世界大会が行われたり、国体の競技になったりするなど、世界中で注目されている。しかし、「目が悪くなる」「ゲーム依存症になる」などの問題点が指摘されていることは、多くの児童にとって既知の情報であるだろう。「問題があることは知っている。しかし大人を含め多くの人がしている。自分もしたい。」このように反対の感情が生まれることで、「法律（きまり）だから守らなければならない」という考え方から、法の意義や価値について意識するようになる。そのため「ゲーム禁止法は実現されてよいか」という論題が適切だと考える。

第1時に「ゲーム禁止法は実現されてよいか」という論題で議論し、ふり返りを行うことで、単元を通して「どうしてこの法律が生まれたのか」という法案成立過程に着目させたり、「法律は本当に正しいのか」「憲法をどう解釈したらよいか」と法が適正かを価値判断させたり、「どうすれば改正できるのか」「自分は何をすべきなのか」と実践的に判断させたりすることができる。第2時、第3時では、法案成立の過程に着目することで、国会、内閣、裁判所の役割について関連付けて学習を進めていく。第4時から第6時では、国民として法の適正さを価値判断する規準として日本国憲法を学習していくことで主体的に知識を獲得することができる。そして第7時で再度「ゲーム禁止法は実現されてよいか」という論題で議論させる。法案成立過程や法の適正さの価値判断、それらを支える日本国憲法についての知識を獲得した後の議論になるため、思考の深まりが期待できる。

3 単元の目標

- 「ゲーム禁止法」という仮想の法令が制定される流れを学習する中で、立憲民主主義国家の仕組みに関心を持ち、日本国憲法や立法、司法、行政の働きと国民の関わり方について理解し、自らや社会の在り方について選択・判断することができる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日本国憲法は国家や国民生活の基本を定めていることや、民主政治は憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解し、我が国の政治の考え方と仕組みや働きについて理解するとともに、資料の読み取りを通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けている。	複数の立場や意見を踏まえて、日本国憲法が国民生活に果たす役割を多角的に考えたり、社会における課題を憲法と関連付けて判断したりし、それらを基に議論することができる。	主体的に学習の問題を解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを生かそうとしたりしている。 多角的な思考や理解を通して、将来を担う国民として自覚している。

5 単元計画（全7時間）

	学習内容	評価規準【観点】（評価方法）	獲得させる知識及び選択・判断する力
1	法律はだれのために ○「ゲーム禁止法」とそれに関連する資料を読み、問題点を明らかにする。 ○資料を基に主張と根拠を考えて書く。 ○論拠となる憲法や法が作られる仕組みについて調べていく計画をし、学習課題を設定する。 【学習課題】「ゲーム禁止法」はなぜ問題なのだろう。どうすれば変えることができるのだろう。	・法はだれがどのようにして作っているのか、どのような方法で主張すればよりよい社会にしていくのかに関心を持ち、学習課題の設定に意欲的に取り組んでいる。 【主体的に学習に取り組む態度】 （ワークシート記述、発言）	価値的判断
2	国会と内閣 ○なぜこの法律が成立したのかについて考える。 ○国会と内閣の働きについて調べる。	・国会と内閣の働きについて調べ、法律の成立と施行の流れについて考えることができる。 【思考・判断・表現】 （ノート記述）	・国会と内閣の働き ・参政権 事実的知識
3	裁判所 ○どのようにすれば法律に問題があることを主張できるのかを考える。 ○裁判所の働きについて調べる。	・裁判所の働きについて調べ、権利を守るために訴える方法を考えることができる。 【思考・選択・判断】 （ノート記述、行動観察）	・裁判所の働き ・裁判を受ける権利 事実的知識
4	国民主権 ○国民として政治にどのように関わっていけばよいか考える。 ○国民主権について調べる。 ○天皇の役割について調べる。	・選挙や情報公開制度が憲法の国民主権に基づいて行われていることを理解し、国民としての政治への関わり方について考えることができる。 【思考・判断・表現】 （ノート記述、行動観察）	・国民主権について ・象徴天皇について 事実的知識
5	平和主義 ○平和の実現のためにどのような取組が必要か考える。 ○平和主義について調べる。	・憲法の平和主義に基づいた取組を知り、平和の実現のために自分たちにできることを考えることができる。 【思考・判断・表現】 （ノート記述、行動観察）	・平和主義について ・自衛隊の役割について 事実的知識
6	権の尊重 ○憲法ではどのような権利が保障されているのか考える。 ○権利と義務について調べる。	・憲法にはさまざまな権利と義務が定められていることを理解し、公共の福祉やお互いの権利を尊重することについて考えることができる。 【思考・判断・表現】 （ノート記述、行動観察）	・基本的人権の尊重について 事実的知識 概念的知識
7	法律はだれのために ○単元を通して調べてきたことを基に、「ゲーム禁止法」の問題点について議論する。 【まとめ】 法律は選挙で選ばれた国民の代表によってつくられている。立法、行政、司法の三権が分立し権力の集中を防いでいる。国民は憲法に基づいて政治が行われているか関心をもつべきである。	・憲法の基本的人権の尊重を侵害する法律は違憲であること、国民として選挙や訴訟という方法で変えていくことができることについて理解し、自分の行動（主張）について根拠を憲法に基づいて考えることができる。 【思考・判断・表現】 （ノート記述、行動観察）	概念的知識 価値的判断 実践的判断

6 本時の展開（第1時）

(1) 本時の目標（つきたい力）

○資料を読み、「ゲーム禁止法」の問題点について考え、法が成立する過程や憲法の保障する権利について学習課題を設定することができる。

(2) 学習展開

学習活動 発問と予想される児童の反応	指導上の留意事項 (目指す姿に近づけるための手立て)	評価規準 [観点] (評価方法)
<p>1 「ゲーム禁止法」を示し、めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【めあて】 「ゲーム禁止法」は制定されてもよいのだろうか。</p> </div> <p>2 「ゲーム禁止法」について議論する。 ○「ゲーム禁止法」は実現されてよいでしょうか。 ・嫌だ。 ・男女差別だ。 ・ゲームは本当に危険なの？ ○自分の主張と理由、そう考える根拠（憲法や資料）についてワークシートに書きましょう。 ○グループで議論しましょう。 ○グループで議論したことを発表しましょう。 ・ゲームができないのは嫌だ。 ・男子だけが禁止というのはおかしい。 ・わたしたちの自由をうばわれている。 ・憲法に人権の保障について書いてある。 ・働く人の仕事をうばうことになるのは憲法に違反している。</p> <p>3 単元の学習計画を立てる。 ○法律に関する疑問を出し合ひましょう。 ・だれが（どこで）どのように法律がつくられたのか。 ・どこへどのようにすれば憲法違反だと訴えることができるのか。 ・憲法にはどのようなことが書かれているのか。 ・自分たちにできることは何なのか。</p>	<p>○仮想の法律が制定されるという設定を理解させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【めあて】 「ゲーム禁止法」は制定されてもよいのだろうか。</p> </div> <p>○全ての児童が反対にまわることを想定し、ゲームの危険性について書かれた資料を示し、法の目的を理解させる。 ○「ゲーム禁止法」の問題があると考える部分に線を引かせ、その理由を書かせることから取り組ませる。 ○グループでの議論で考えを深めさせる。</p> <p>○友達の見意見を聞いて主張、根拠、論拠が変わったり、付け加えられたりする場合はワークシートに書き足すように促す。 ○児童の発言に対して「その理由で変えてもらえるの」「法律にそんなことが書かれているの」などの揺さぶる問い返しをする。 ○憲法について話題が広がってきたところで議論を終える。</p> <p>○疑問がなかなか出ないときは「だれが考えたんだろう」「この後どうすればいいんだろう」とつぶやくことで気付かせていく。</p> <p>○社会参画の意識をもたせるように「あなたたちにできることは」と問いかけるようにする。</p>	<p>法はどこでどのようにして作られるのか、どのような方法で主張すればよりよい社会にしていけるのかに関心を持ち、学習課題の設定に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】（発言・ワークシート）</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【まとめ】「ゲーム禁止法」をこのまま制定させてはいけない。法律のつくられ方や反対する方法、憲法を調べれば制定させない方法が分かりそうだ。</p> </div>		
<p>4 本時のふり返しをする。 ○今日の学習をふり返りましょう。 ・「ゲーム禁止法」は絶対反対。 ・どうすれば法律を変えることができるのか調べていきたい。 ・憲法はわたしたちのどんな権利を保障しているのか疑問をもった。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">目指す児童の姿</p> <p>・「ゲーム禁止法」について自分の考えを説明する中で、法につくられ方や反対の仕方、憲法について関心を持ち、主体的に学習計画を立てることができる。</p> </div>	

7 本時の展開（第2時）

(1) 本時の目標（つきたい力）

○国会と内閣の働きについて調べ、法律の成立と施行の過程について考えることができる。

(2) 学習展開

学習活動 発問と予想される児童の反応	指導上の留意事項 (目指す姿に近づけるための手立て)	評価規準 [観点] (評価方法)
<p>1 前時の学習をふり返り、めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【めあて】 「ゲーム禁止法」はだれがどうやってつくったのだろう。</p> </div> <p>2 法が作られる過程を調べる。</p> <p>○法はだれが作っているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総理大臣。・天皇。 ・国会議員。・国民。 <p>○だれがどのように作っているのか資料をもとに調べましょう。</p> <p>○資料を読んでだれがつくっていると考えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国会議員（衆議院議員・参議院議員） ・総理大臣・大臣（官僚） ・法制局・天皇 <p>○最終的に決めているのはだれですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天皇は公布しているだけだからつくっているとは言えない。 ・総理大臣も国会で認められないと法律はつくれない。 ・国会議員が集まって決めている。 <p>○国会議員が集まって決める機関を「国会」と言い国会は「立法機関」と言われ、「内閣」は「行政機関」と言い、国会で決まった法律や予算で政治を行っていきます。</p> <p>○どうやって国会議員になるのか知っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選挙。 <p>○国会議員を決めたのはだれですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民 <p>○法律ができる前に国民としてできることは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選挙で意思表示する。 ・みんなで意見を言って世論にする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【まとめ】 国民が選挙で選んだ代表によって国会が開かれる。その国会で法がつけられる。つけられた法を基に内閣によって政治が行われる。</p> </div>	<p>○法の成立と施行の過程に関心を向けさせる。</p> <p>○数名の児童の発言を取り上げ、全員に予想させる。</p> <p>○法の成立過程を追究させながら、国会や内閣の働きについて理解させる。</p> <p>○議員提出法案と内閣提出法案の仕組み、法案が国会を通過して成立・公布する仕組みについて資料を示す。</p> <p>○国会で法案について議論している場面を資料として示す。</p> <p>○ワークシートに記入させながら国会・内閣の働きについて確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>国会議員の意見はだれの意見??</p> </div> <p>○国会で法が成立することを確認した後問い返しをし、国民の関わり方について考えさせる。</p> <p>○国民が選挙という方法で法律の制定に関わっていることを確認する。</p> <p>○社会参画の意識をもたせるように「国民としてできることは」と問いかけるようにする。</p>	<p>法の成立過程について、国会と内閣の働きをもとに考え、国民が選挙によって関わっていることを説明することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 (発言・ワークシート)</p>
<p>3 本時のふり返りをする。</p> <p>○今日の学習をふり返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総理大臣がつくっていると思っていたけど、国会で法律をつくっていることがわかった。国民は国会議員を選ぶことで法律に関わっている。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>目指す児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法の制定と公布の過程について、国会と内閣の働きをもとに考え、国民の関わり方について説明することができる。 </div>	

8 本時の展開（第3時）

(1) 本時の目標（つきたい力）

○裁判所の働きについて調べ、裁判所が法に基づいて国民の権利を守っていること、裁判員制度によって国民の裁判への参加が行われていることについて理解することができる。

(2) 学習展開

学習活動 発問と予想される児童の反応	指導上の留意事項 (目指す姿に近づけるための手立て)	評価規準 [観点] (評価方法)
<p>1 前時の学習をふり返り、めあてを確認する。</p>	<p>○国会と内閣の関係図を示し、三権分立のもう一つの権力である裁判所に関心を向けさせる。</p>	
<p>【めあて】 「ゲーム禁止法」の問題点は裁判所で解決できるだろうか。</p>		
<p>2 裁判所の働きを調べる。</p> <p>○裁判所ではどのように裁判が行われるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁護士と検察が戦う。 ・裁判官が判決を言う。 <p>○どのように裁判が行われるのか資料をもとに調べましょう。</p> <p>○なぜ裁判が行われていると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・罪があるかないか判断するため。 ・権利を守るため。 ・法律に基づいて判断するため。 <p>○なぜ裁判員制度があると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裁判に国民の考えを反映するため理解されやすくなる。 ・司法を身近に感じることができるから。 ・裁判の期間を短くできるから。 <p>○「国民審査」とは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最高裁判所の裁判官を国民が審査すること。 <p>○「違憲審査」とは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字からは「憲法と違う」という意味。 ・憲法に基づいているかを判断すること。 	<p>○数名の児童の発言を取り上げ、全員に予想させる。</p> <p>○裁判の過程を追究させながら、ワークシートに記入させ、裁判所の働きについて確認する。</p> <p>○民事訴訟と刑事訴訟、三審制の仕組み、法廷の写真を資料として示す。</p> <p style="text-align: center;">もしも裁判が受けられなかったら??</p> <p>○資料として三権分立の仕組みを示し、「裁判員制度」「国民審査」「違憲審査」に着目させる。</p> <p>○裁判員制度が導入された目的と現在の課題についての資料を示す。</p> <p>○国民審査の内容を示す資料を示す。</p> <p>○裁判員制度と国民審査制度から国民の関わり方について考えさせる。</p> <p>○違憲審査の内容を示す資料を示す。</p>	<p>裁判の過程について、裁判所の働きをもとに考え、国民の権利を守るために裁判が行われていることを説明することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 (発言・ワークシート)</p>
<p>【まとめ】 裁判所は法を基に判断している。最高裁判所は憲法に適さない法を違憲審査することができる。</p>		
<p>3 本時のふり返りをする。</p> <p>○今日の学習をふり返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法に基づいて裁判が行われていることがわかった。 ・国民は裁判員制度や国民審査で裁判に関わっている。 ・裁判は国民の権利を守る働きをしているとわかった。 	<p>○社会参画の意識をもたせるように「国民としてできることは」とふり返らせるようにする。</p> <p style="text-align: center;">目指す児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裁判所の働きについて、裁判の過程を通して考え、国民の関わり方について説明することができる。 	

9 本時の展開（第4時）

(1) 本時の目標（つけたい力）

○日本国憲法の国民主権の原則と天皇の地位について理解し、国民としての政治への関わり方について考えることができる。

(2) 学習展開

学習活動 発問と予想される児童の反応	指導上の留意事項 (目指す姿に近づけるための手立て)	評価規準 [観点] (評価方法)
<p>1 前時の学習をふり返り、めあてを確認する。</p>	<p>○憲法の前文を読み、国民主権の考え方がどのように生かされているのかに課題意識を向けさせる。</p>	
<p>【めあて】 わたしたちは政治にどのように関わることができるのだろう。</p>		
<p>2 国民主権について調べる。</p> <p>○憲法には天皇についてどのように書かれているだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の象徴。 ・国事行為を内閣の助言と承認にもとづいて行う。 <p>○憲法の国民主権の考えはどのように政治に生かされているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報公開制度 ・選挙 ・裁判員制度 <p>○なぜ日本の選挙権は18歳以上に引き下げられたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年層の投票率が低いから。 ・若年層の考えを政治に取り入れるため。 <p>○なぜ選挙に行かない人がいるんだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような政治が行われているかわからないから。 ・選挙に行くのが面倒だから。 ・どうせ自分が投票してもという考え。 <p>○どうすれば投票率を上げられるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治にみんなが関心をもつ。 ・政治は自分や家族に関係していると思うようにする。 ・スマホで簡単に投票できるようにする。 ・選挙を義務にする。 	<p>○資料から天皇の主な仕事について確認させる。</p> <p>○資料から政治に国民が関わっていることについて確認する。</p> <p>○資料として世代別投票率や投票率の推移を表すグラフを示す。</p> <p>○選挙に行かない人の立場で問題点を考えさせる。</p> <p>○投票率を上げるための方法を自分たちで考えさせることで、主体的に社会参画する意識をもたせる。</p>	<p>国民主権について自分の言葉で説明し、国民としての政治への関わり方について考えることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 (発言・ワークシート)</p>
<p>目指す児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民主権について知り、政治への関わり方について説明することができる。 		
<p>【まとめ】 憲法には主権が国民にあることを示している。国民として政治に関心をもつて選挙を通して参加することが大切である。</p>		
<p>3 本時のふり返しをする。</p> <p>○今日の学習をふり返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民主権とは国民が政治に関わることだと分かった。 ・国民は選挙や政治にもっと関心をもつべきだと思った。 	<p>○「国民として何ができるのか」という視点で学習をふり返らせる。</p>	

10 本時の展開（第5時）

(1) 本時の目標（つけたい力）

○日本国憲法の平和主義に基づいた取組を知り、平和の実現に向けて自分たちにできることを考えることができる。

(2) 学習展開

学習活動 発問と予想される児童の反応	指導上の留意事項 (目指す姿に近づけるための手立て)	評価規準 [観点] (評価方法)
<p>1 前時の学習をふり返り、めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【めあて】 平和主義とはどのような考え方ののだろうか。</p> </div> <p>2 平和主義について調べる。</p> <p>○どんな社会を平和だと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争がない。 ・争いや差別がない。 <p>○憲法ではどんなことを示していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恒久の平和。 ・武力による威嚇や武力を行使することをしない。戦争をしない。 ・軍隊を持たない。 <p>→守るための自衛隊。</p> <p>○憲法で示しているような平和な社会をつくるためにどんなことができるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分一人ではできないけど協力して思いを伝えることができる。 <p>○「被爆 75 周年記念行事」にどんなことをして何を呼びかけると良いと思いますか。自分たちにできることはなんですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原爆のことを伝える展示。 ・核兵器をなくそうと呼びかける。 ・核兵器をもっている国に手紙を書く。 ・行事に積極的に参加する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【まとめ】 平和主義とは、戦争をしないこと、武力をもたないことを憲法で定めていることである。</p> </div>	<p>○憲法の前文と 9 条を示し、平和主義に関心を向けさせる。</p> <p>○平和についての考えをペアで話し合わせる。</p> <p>○憲法前文及び第 9 条にどのようなことが示されているのか読み取る。</p> <p>○武力に関わって非核三原則についても説明する。</p> <p>○資料として「国際平和拠点ひろしま構想推進計画」を示し、広島県の現在の取組を紹介する。</p> <p>○平和記念式典やおりづるなど身近な取組で人々はどんな思いをもっているのか考えさせる。</p> <p>○「国際平和拠点ひろしま構想推進計画」の内容の一つである「被爆 75 周年記念行事」について実践的に判断する場面を設定する。</p>	<p>平和主義について自分の言葉で説明し、国民として平和の実現のためにできることを考えることができる。 【思考・判断・表現】 (発言・ワークシート)</p>
<p>3 本時のふり返りをする。</p> <p>○今日の学習をふり返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法は平和な社会をつくることを目指している。 ・国民として平和について考え、世界に呼びかけていきたい。 ・自分にできることを考えて平和についてもっと学習したい。 	<p>○社会参画の意識をもたせるように「国民としてできることは」とふり返らせるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>目指す児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和主義について知り、世界の平和のためにどのような取組がなされているのか自分はどう関わっていけばよいか考えることができる。 </div>	

11 本時の展開（第6時）

(1) 本時の目標（つきたい力）

○教育を受ける権利について考える活動を通して、基本的な人権が尊重されることの意義を説明することができる。

(2) 学習展開

学習活動 発問と予想される児童の反応	指導上の留意事項 (目指す姿に近づけるための手立て)	評価規準 [観点] (評価方法)
<p>1 前時の学習をふり返り、めあてを確認する。</p>	<p>○憲法第三章を抜粋して示し、権利に関心を向けさせる。</p>	
<p>【めあて】 「基本的な人権の尊重」にどんな意味があるのだろうか。</p>		
<p>2 権利と義務について調べる。</p> <p>○憲法にはどんな権利や義務が示されていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の尊重, 幸福追求の権利, 平等権, 公務員を選ぶ権利, 参政権（選挙権）, 思想・良心の自由, 信教の自由, 表現の自由, 居住と職業選択の自由, 学問の自由, 結婚の自由, 生存権, 教育を受ける権利。 ・教育を受けさせる義務, 仕事について働く義務, 納税の義務。 <p>○もし教育を受ける権利がなかったらどんな生活になると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強しなくていいから楽になると思う。 ・だれも学校に来ないと思う。 <p>○だれでも等しく教育を受ける権利があることにどんな良さがあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来好きなことができる。 ・文字が読めたり計算ができたりする。 ・夢が実現できる。 ・幸せに暮らすことができる。 <p>→憲法が目指す国家を形成する国民に必要な資質。</p> <p>○その他の権利や義務にはどんな意味があるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どれも幸せに暮らすために必要な権利。 ・どれも幸せな社会をつくるために必要。 	<p>○国民の権利と義務を絵カードと対応させながら黒板に示す。</p> <p>○調べたものを発表させながら具体的に想像しにくい権利については説明を加える。</p> <p>○教育を受ける権利は「だれでもひとしく教育を受けることができる」権利であり、この権利がないと教育を受けたくても受けられない子供が出てくる可能性を示す。</p> <p>○教育を受けていない人が社会に適應することの難しさ, 受けた人と受けていない人の格差などを問題点の例として示す。</p> <p>○教科書の識字・多文化共生学級の写真を見せ, 教育を受ける権利が保障されている様子を示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法に記されている基本的人権について理解し, 権利を尊重し合うことが個人や社会の幸福につながることを説明することができる。 <p>【思考・判断・表現】 (発言・ワークシート)</p>
<p>目指す児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権について知り, 権利を尊重することの意味を説明することができる。 		
<p>【まとめ】 基本的な人権の尊重とはお互いの権利を大切にすることである。権利を尊重し合うことが個人や社会の幸福につながる。</p>		
<p>3 本時のふり返しをする。</p> <p>○今日の学習をふり返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法は権利を保障している。 ・国民としてお互いの権利を尊重していく。 	<p>○社会参画の意識をもたせるように「国民としてできることは」とふり返らせるようにする。</p>	

12 本時の展開（第7時）

(1) 本時の目標（つきたい力）

○単元を通して獲得した知識を基に「ゲーム禁止法」について考え、自分の主張、根拠、論拠を整理して議論することができる。

(2) 学習展開

学習活動 発問と予想される児童の反応	指導上の留意事項 (目指す姿に近づけるための手立て)	評価規準 [観点] (評価方法)
<p>1 「ゲーム禁止法」を示し、めあてを確認する。</p>	<p>○仮想の法律が制定されるという設定を理解させる。</p>	
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>【めあて】 「ゲーム禁止法」は本当に制定されてもよいのだろうか。</p> </div>		
<p>2 「ゲーム禁止法」について議論する。</p> <p>○「ゲーム禁止法」はどんな理由で制定されたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和主義の考え。 ・ゲームをすることと暴力につながりがある。 ・平和主義が憲法前文に書かれているからゲームを禁止している。 ・憲法は健康な生活を保障しているから健康に悪いゲームを禁止している。 <p>○あなたは「ゲーム禁止法」に賛成ですか。反対ですか。資料をもとに自分の主張と根拠、そう考える論拠（憲法や資料）についてワークシートに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・禁止というのはおかしい。憲法で権利が保障されていたはずだ。 ・反対してはいけないという第四条は絶対に憲法違反だ。 <p>○全体で議論しましょう。</p> <p>【賛成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憲法前文の平和主義と生存権に書かれた健康のためにゲーム禁止法に賛成。 <p>【反対】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子だけ禁止というのは男女差別だと思ふ。憲法の男女平等に反する。 ・製造を禁止するのは憲法違反。表現の自由や、働く権利を奪っている。 ・働く人の仕事をうばうことになるのは憲法に違反している。 ・ゲームを所持することを禁止するのはおかしい。憲法の財産権を侵害している。 ・資料にはゲームの良さも書かれている。ゲームは文化になっているから文化的な生活を保障しなければならない。 <p>○どんな方法で反対の考えを社会に示せばよいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選挙で「ゲーム禁止法」に反対している人を選ぶ。 ・請願権があるから、自分の考えを伝える。 	<p>○2回目の議論であるため、法の目的など第1時で行った説明は省略する。</p> <p>○「ゲーム禁止法」を制定した政府の根拠（「ゲーム禁止法」の良いと考える部分）、論拠（憲法の何条にどんな権利が保障されているのか）をあきらかにする。</p> <p>○友達の意見を聞いて主張、根拠、論拠が変わったり、付け加えられたりする場合はワークシートに書き足すように促す。</p> <p>○「反対だとしたら『ゲーム禁止法』のどの条文に反対なのかをあきらかにさせる。</p> <p>○児童の主張の論拠を板書し、対立する権利を構造的に示す。</p> <p>○一方の主張に片寄る時には他方の意見を教師から示し、「こういう考え方にはどう反論するか。」と問い、考えを深めさせる。</p> <div data-bbox="671 1491 1289 1715" style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">目指す児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゲーム禁止法」について憲法を論拠にして議論する活動を通して、自分の選択・判断したことを再考し、取るべき行動について深く考えることができる。 </div> <p>○憲法を根拠にした発言を肯定的に評価していく。</p> <p>○社会参画の意識をもたせるように自分はどうのようにして反対の考えを示すのかを考えさせる。</p>	<p>自分はどのように選択・判断し、行動すればよいのかを考え、その行動を説明することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 (ルーブリック)</p>

<p>・裁判を起こす。</p> <p>○いろいろな考えの人が納得できるようにするにはどうすればよいですか。</p> <p>・ゲームを禁止にするのではなくて注意するように呼びかければよいと思う。</p> <p>・ゲームの内容で年齢制限をしたり、暴力的な内容を減らしたりすればよい。</p> <p>3 本時のふり返しをする。</p> <p>○今日の学習をふり返しましょう。</p> <p>・ぼくはもっと政治や法律に関心をもってニュースを見たりしていきたいと思った。</p> <p>・私は18歳になったら選挙に行き、しっかり考えて投票したいと思った。</p>	<p>○議論の状況を見て合意形成に向けた議論に方向転換させる。</p> <p>○賛成していた国会議員が請願書を見たという場面を想定させる。</p> <p>○国民としてどのように政治に関わっていくのかについて考えたことをふり返らせる。</p>	
<p>目指す児童の姿</p> <p>・「ゲーム禁止法」がどのような考えで制定されたのかを考え、憲法に保障された権利を根拠に意見を述べたり、行動の仕方を選択したりすることができる。</p>		

7 板書計画 (第7時)

